

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻
博士論文 要旨

妊娠期から育児への移行期にある夫婦の家事・育児における
認識の違いに基づいた夫婦の関係調整プログラムの開発

東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科 医療保健学
専攻博士課程
領域名 看護学
学籍番号 HD115001
氏名 内田 貴峰

背景 (Background or Introduction)

妊娠期から育児期は、夫婦にとって親役割を担う家族発達段階の移行期であり、この時期は家事や育児に時間を費やされ、互いのコミュニケーションの時間を十分に取ることができないため、家族の発達形成における危機に直面しやすい。

育児期の夫婦は、個々の価値観やコミュニケーションのパターンの違いを知り、お互いの気持ちや考え方や受け止め方を学んでおくことなど夫婦の関係調整が求められる。

欧米では、家族の発達形成における危機を想定して、父親も参加して親役割への移行に重点をおき、夫婦関係を強化しながら、家事・育児分担などの各々が役割を考え、また、生じる可能性のある夫婦間の葛藤などの問題を軽減することを目的とする出産準備教育プログラムが検討されている。日本においては、諸外国で実施されている内容が組み込まれていないだけでなく、時間的制約という状況の中で、妊娠中の経過や立ち会い分娩に備える教育プログラムでとどまっている。

そこで、妊娠期から育児への移行期にある夫婦に対して、家事・育児に対する認識の違いに基づいた夫婦の関係性における葛藤の実態を明らかにし、夫婦が関係調整をできるためのプログラムを構築し、その有用性を検討した。

目的 (Objective)

妊娠期から育児への移行期にある夫婦の関係調整ができるためのプログラムを構築し、その有用性を検討して、今後の助産師としての支援について考察することを目的とした。

方法 (Methods)

本研究は、下記のように研究 1, 2, 3 で構成した。

1. 研究 1 「妊娠から育児への移行期にある夫婦の家事・育児分担を通しての関係調整に関する研究 育児期にある妻が夫に抱く葛藤と回避のプロセス」：質的記述的研究育児期にある妻に対して夫に対する葛藤と回避のプロセスを明らかにすることで、夫婦への支援のあり方を検討した。

2. 研究 2 「妊娠期から育児への移行期にある夫婦の家事・育児を通して、夫婦の認識の実態の研究」量的研究、自由記載は質的に分析した。児への育児行動が安定し易いとされる 3, 4 ヶ月の夫婦の関係調整の実態を明らかにし、支援方法を検討した。
3. 研究 3 「妊娠から育児への移行期にある夫婦の関係調整を構築するためのプログラムの検討」夫婦の関係調整と支援方法のプログラムを構築して、その有用性を検討した。

結果(Results)・考察 (Discussion)

1. 研究 1 では、インタビューの結果から時間経過に伴い、出産直後期、混乱期、調整期、学習期、葛藤回避期、関係調整期に分類できた。その時期別に、葛藤とその回避の内容から、【出産後の困難と妻の受け止め】【夫の対応】【妻の葛藤】【対話を求めて】【夫への対処】【葛藤/解消】【新たな関係性】7 つの項目で構成されていることがわかった。
3. 研究 2 では、ペアレンティング調整は、妻が夫より促進行動が高かった。自分の相手への態度は、「威圧」「無視・回避」は夫が妻より高い傾向にあり、妻は自分の気持ちを夫に抑圧、無視されていることから夫婦間でのコミュニケーションが十分に取れていない可能性がある。コーピング行動は、問題焦点型において妻が夫より対処行動がとれない傾向にあり、夫のサポートを要することが明らかになった。
4. 研究 3 では、妊娠期に産後に起こりうる問題を想定して、夫婦の関係調整をはかるプログラムを体験した。それを通して、夫婦で育児について話す機会や産後の夫婦の状況を疑似体験する機会を得られ、夫婦の関係調整を図ることにつながっていた。

結論 (Conclusions)

1. 妻は、夫に対して自分の辛い気持ちを受け止め、それに答えて欲しいと考えており、夫に対して、自分の気持ちを察して家事・育児をするように求めるのではなく、夫にやって欲しいことを、具体的に言葉で伝えることが重要であることが示唆された (研究 1)。
2. 時間経過に伴い、出産直後期、混乱期、調整期、学習期、葛藤回避期、関係調整期に至ることが示され、夫婦関係の調整には、葛藤と回避のプロセスに注目した支援と関係調整期以降の時期に合わせた支援を検討する (研究 1)。
3. 夫婦に相互に考えや希求すること、コミュニケーションの様相、ストレスに関するコーピング行動に差が見られたことで、夫婦個々に相違があることが示唆された (研究 2)。
4. 夫婦関係の調整に困難を示す夫婦には、妊娠中の安定期に産後に起こりうる問題について話す機会や産後の夫婦の状況を疑似体験する機会を得ることは、夫婦の関係調整を図ることにつながっていた。(研究 3)。

キーワード (Key Words)

妊娠期、育児期の移行期、夫婦、夫婦の関係調整